



第2図 開会式の様子

3次元地質地盤図の床張りを前にして中尾信典地質調査総合センター長が開会挨拶をしているところ。この後、岡田 誠日本地質学会会長(中央右寄りのモニターを利用したのリモート形式)、高木秀雄早稲田大学教授(写真手前)からもご挨拶いただきました。



第3図 会場内の全容

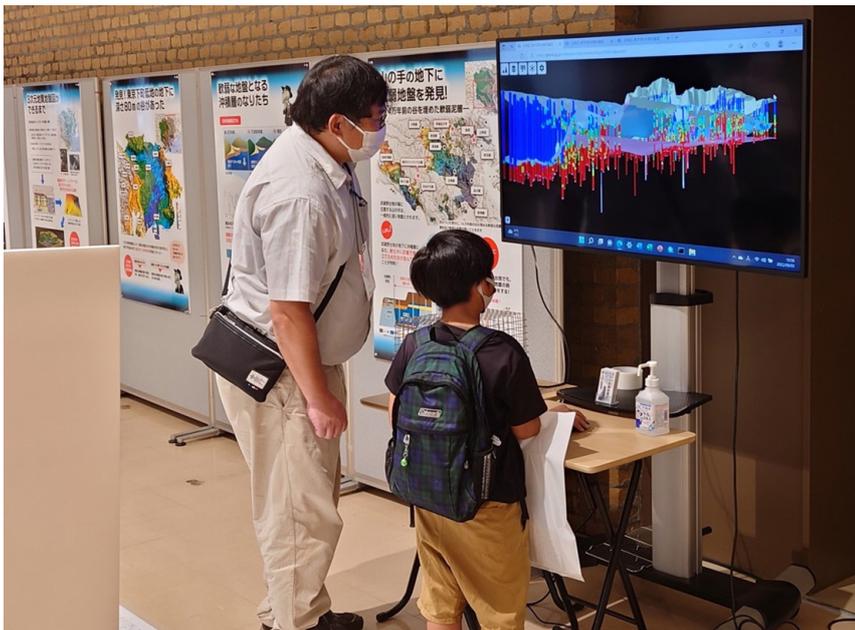
会場奥に解説パネルや床張りの大判の地質地盤図を設置し、大型モニターを使ってデモ展示を行いました。写真右側奥に体験コーナーを配置し、入り口に近いところ(写真手前)には、受付(左側)やGSJ発行の地質図幅や地質標本館のミュージアムグッズの販売コーナー(右側)を設置しました。

地質図、「2万年前及び14万年前の谷底の地形」の2種類;それぞれ4m×4.5m)を置きました(第3図,第4図)。また、パネル横には大型モニター2台を設置して、3次元地質地盤図の説明ビデオの上映と、実際にWEB公開されている3次元地質地盤図のデモンストレーションを行いま

した(第5図)。床張りの地質地盤図ではそのまま地図の上に乗っていただき、来場者の自宅などの位置を見ながらGSJのスタッフが説明を行いました(第4図)。そのほか、「東京の地史」、「東京の地質」、「東京の地下水」、「地中熱利用システム」、「地震の起こり方」、「首都直下地震」、「首都



第4図 会場での説明の様子
床張り的大判の地質地盤図で来場者の自宅や勤務先など関心のある場所の地盤の様子をスタッフが説明。自宅の地盤情報などの話題は来場者の関心が高く、熱心な質問が寄せられることが多かったです。



第5図 都心の3次元地質地盤図のデモの様子
GSJでWEB公開している3次元地質地盤図を大型モニターに映し、来場者に実際に操作・体験してもらいました。

圏周辺で起きる津波」,「多摩川低地の沖積層アトラス」などのパネル展示を行いました。加えて、「地盤の液状化実験」・「地盤の揺れ実験」・「地質ジオラマ模型」の体験ブースも出展し,上記のパネルと併せて,GSJのスタッフが来場者に対して説明を行いました(第6図)。これらの体験ブースでは単なる図や文字の説明だけではなく,現象を実験で見ることができるので,理解がより深まったようです。

また,会場のロビーに隣接する教室を使用して,「地盤

の揺れのもととなる地震のしくみ」・「地盤の揺れの違いをもたらす地質の分布」・「地盤の揺れに伴って生じる地盤液状化」の3つのテーマのミニ講演会(各30分程度)を9月3日と4日の2日間開催し,こちらも多くの方に聴講していただきました(第7図)。その他,東京周辺の地質図幅や地質標本館のミュージアムグッズの販売も行いました(第3図)。3年ぶりの日本地質学会学術大会との同時開催の地質情報展ということもあり,新作の地質図や地質標本館の



第6図 体験コーナーの様子

地盤と建物の模型を使って地盤の揺れを観察しながら地震計で波形を読み取る体験コーナーと、ペットボトルを使った簡易的な地盤の液状化実験コーナーを設置。体験コーナーは、子供の関心が高かった。



第7図 ミニ講演会の様子

2日間にわたって、GSJの研究者が3つのテーマでミニ講演会を行った。地盤に関わる講演会は、自分の住んでいる土地に直接つながる情報なので、参加者の関心はとても高かった。

ミュージアムグッズが訪れた方々に好評でした。

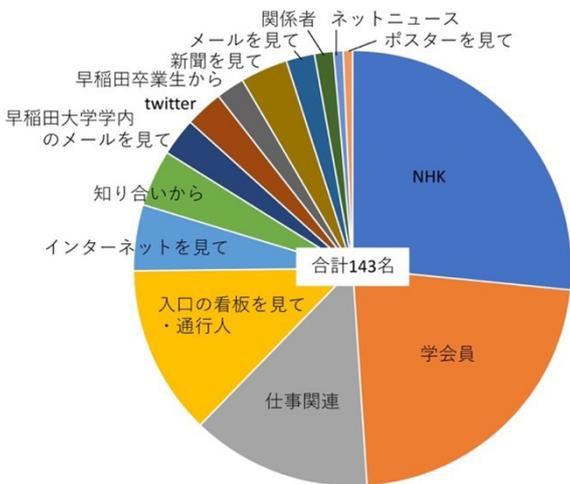
日本地質学会からは、第13回惑星地球フォトコンテストの入選作品12点の展示を行いました(第8図)。また、9月4日午後には、日本地質学会の市民向けの普及講演会も隣接する教室で開催されました。

3. 来場者数と来場者からの声

地質情報展の開催について、開催の数日前に新聞2紙で紹介していただきました。また、開催中は、9月3日午前にNHKの取材を受け、その日の昼、夕方、翌日の朝のニュースで放送されました。これらの報道の影響もあって、



第8図 日本地質学会のフォトコンテスト入選作品の展示
一般の方から応募のあった地球科学の写真を通して地質・地形の不思議や美しさを知っていただくコーナー。小さな水の流れてできた地形の写真から、東京低地と台地の地形の関係に気付いた方もいた。このフォトコンテストは、自然の造形の不思議さ・魅力を伝える良い機会となったようである。



第9図 このイベントを知った情報源
数は少ないが、受付で聞き取りを行って得た情報の集計。テレビの効果が大きい。

開催3日間で1,500名を超える来場者がありました(第9図)。都心の3次元地質地盤図については、都内に住む方々にとっても関心の高い話題であることは予想していましたが、2020年初めから続くコロナ禍によって来場者数を予想しにくい中で多くの皆様にご来場をいただいたことは、

開催した側にとって大きな励みとなりました。

今回もアンケートはとっていませんが、来場者からの声として以下のようなものがありました。

- ・このような地盤の情報は、自治体の職員などが知っておくのが良いので、ぜひ講演会などで周知してほしい。
- ・近くに住んでいるので、通りすがりに来てみた。
- ・地質標本館のファンなので来てみた。
- ・地震に関する講演会が聞きたくて来ました。

4. おわりに

今回の地質情報展の運営体制を第1表に示します。昨年度に続くコロナ禍の中での地質情報展の開催でしたが、「地質情報展2022 あいち」(2月19日・20日；遠山ほか、2022)での新型コロナウイルス感染症対策で得た経験を活かして今回も無事開催できました。第1表に記された方の他にもGSJ内の多くの方々にご支援いただいています。併せて、会場となった早稲田大学のスタッフの方々、共催の日本地質学会事務局の方々、会場運営に協力していただいた早稲田大学の学生の皆様、イベント情報の発信に協力いただいた産総研広報部の皆様にもこの場を借りて御礼申し

第 1 表 地質情報展 2022 とうきょうの運営体制

2022地質情報展企画運営委員会							
企画運営委員							
田中裕一郎	納谷友規	中島善人	二宮 啓	森田澄人	宮下由香里	穴倉正展	
遠山知亜紀 (6月まで)	金子翔平 (7月から)	利光誠一	中澤 努				
事務局支援							
川畑史子	長江敦子	斎藤 眞					
「地質情報展2022とうきょう」実施スタッフ							
パネル作成							
町田 功	小野昌彦	松本親樹	吉原直志	内田洋平	石原武志	中澤 努	野々垣 進
穴倉正展	都井美穂	行谷佑一	澤井祐紀	藤原 治	田辺 晋		
会場運営・解説等							
田中裕一郎	納谷友規	森田澄人	宮下由香里	穴倉正展	遠山知亜紀	金子翔平	利光誠一
町田 功	小野昌彦	松本親樹	吉原直志	内田洋平	石原武志	中澤 努	米岡佳弥
中島和敏	山谷忠大	百目鬼洋平	柳澤教雄	内藤一樹	谷田部信郎	大野哲二	瀬戸口 希
中村由美	石川友美	都井美穂	川畑 晶	斎藤 眞	長江敦子		
体験コーナー説明							
落 唯史	椎名高裕	宮地良典	兼子尚知	川邊禎久	高橋雅紀		
ミニ講演会							
穴倉正展	中澤 努	宮地良典					
告知ポスター・チラシ・WEBページ作成							
清水 恵	都井美穂	川畑 晶	河村幸男				
パネル校正・レイアウト							
清水 恵	都井美穂	遠山知亜紀	金子翔平				

上げます。

なお、今回の展示で使用した展示パネルは、GSJ の WEB サイト「地質情報展ポスターアーカイブサイト (<https://www.gsj.jp/event/johoten/archives/index.html>)」で高画質画像の閲覧ができますので、学校などの教材としてご活用いただければ幸いです。

文 献

遠山知亜紀・宮下由香里・渡辺真人・利光誠一 (2022) 「地質情報展 2022 あいち—発見! あいちの大地—」開催報告. GSJ 地質ニュース, 11, 354-358.

KANEKO Shohei, TOYAMA Chiaki, SHISHIKURA Masanobu, MIYASHITA Yukari and TOSHIMITSU Seiichi (2023) Report on Geoscience Exhibition in Tokyo 2022.

(受付: 2023 年 2 月 21 日)